

新宮山彦ぐるーぷ第1929回

「役行者像・開眼供養法要」の食料等の事前荷上げと準備作業

◇実施日：2017年05月14日(日) 晴・曇り

◇参加者：川島 功、沖崎吉信、畑林清子、生熊敏男・千満子、

児嶋道夫、濱野兼吉、大江徳子。

梶野照雄、青木宏充(2名前泊)。

計10名。

沖崎さん宅を7時50分に出発。今日は帰りに小森に寄るとのこと、児嶋さんはバイクで同行することになる。

浦向集落を過ぎ、集落外れの工事事務所で待機している方に補給路までの通過を告げて、国道425号を登っていく。

前回5月4日に比べ新緑はもう山頂付近まで達している。

補給路登山口に着くとトレラン通過者に飲料水提供の為、前泊した梶野・青木さんの内、青木さんがモノレールを下ろして待機している。梶野さんは、炊事場の踏み台とベンチを作製。



炊事場の踏み台



ベンチを追加作製



昨夜の宿泊者

水(7ℓポリタンク6個)と米(9kg)±食材野菜(13kg)±調味料(4kg)±折と割り箸等(5kg)、他2kgの計33kgを積み込むと荷台は

満杯になり、シートを被せゴムチューブやロープでしっかりと固定する。モノレールの終点で背負子に段ボール(7ℓポリタンク2個の水)の上に自分のザックを載せて出発する。

今日は荷物が重いので、無理せずゆつくりと歩を進める。第二ベンチで青木、沖崎さんと休憩、雑談しながら英気を養い出発。

先行する二人にドンドン遅れてしまうが、マイペースで歩く。途中のコシアブラは、連休に来た時には新芽が堅かったのにもう

葉が開いている。



M機終点で荷作り



終点上のシャクナゲ満開



行仙宿に到着！

小屋に着くともう皆さんそれぞれ自分の仕事にかかっている。梶野さんは、宿小屋入口の傍に机を置いてトレランの参加者にコーラやサイダーを販売している。20名の参加予定が、今回12名になり、聞くとまだ何名か通過していない人がいるようだ。何故かトレランの皆さんには、コーラが好評らしく先月の玉置辻から踏査の際も、試走に来た人からコーラの要望を受けていた。小屋の中にはトレラン用に下北山村の水道水が、10ℓ用意されている。

荷物を置いて又残りの水の荷揚げに青木・沖崎・濱野が降りる。モノレール終点には、水2個入り段ボール箱のみ背負子に載せ登

る。先刻より軽く感じ、なんとか昼食前には小屋に戻る。その間に、川島・生熊さんは、慶讃の護摩供に使う、長さ40cm×約5cm角の割木作りにチェーンソー及び斧と鉄楔を用いて約40本作ると共に桧生葉の採取に梯子を掛け、枝を切り落として、コンテナ一杯分調達する。



護摩用の桧割木作り



宿内床の拭き掃除

小屋の中は掃除機(梶野氏)で掃除され、窓ガラス(大江さん)及び腰板・床(畑林・生熊さん)も磨かれて、見違えるようにきれいになっている。一段落した所で昼食。



窓ガラス拭き掃除



昼食・談笑中



午後からは、お堂の拭き清掃や17日の開眼供養に向けて、それぞれの準備を行う。宿内の備品類は、全てい資材倉庫に一時移動保管し約6和名弱が、直会で座れる様にした。小屋の中も各人が持場の役割を担当し、随分と整理整頓がされる。私はカマドの焚き口に合わせ、もう少し細い薪を作るようにとの事で、川島さんの協力も得て、薪に鉄楔をハンマー叩いて細く割る。

児嶋さんと生熊敏男さんは、モノレールの木製荷台をペンキ塗装すると先行して下る。



薪小屋前の履き掃除



カマド用の薪作り



荷を落とし拾うの見守る

概ね事前準備作業が終了し、小屋を後にする。途中、畑林さん担いでいたカーテンが荷崩れしてサコに落ち、拾いに行くハプニングがあった。

補給路登山口に着くと児嶋、生熊さんは塗料塗りの下準備をされている。程なく、川島・生熊千、畑林さんも塗料塗りを手伝う。しばらくすると沖崎さんが梶野さんを手招いている。車がパンクしたようでジャッキで車体を上げ、車輪を外し予備のタイヤと交換、いつものように手早くすませる。児嶋・生熊さん達は間もなく塗装が終えそうだが、後片付けが残っている。



モノレール木製部のペンキ塗り

本日の作業者

児嶋・川島・畑林・大江さんを残し、私達は紅白の幕を借りるために下北山スポーツ公園内の宿泊施設へ先行する。青木、梶野の両氏も16日に平成の森のバンガロー宿泊の申込に同行。沖崎さんはフロントの宮本さんに聖護院一行の宿泊についての接遇要請を行い、紅白の幕を借りて帰路についた。

行動タイム

新宮 7:50→9:15 補給路登山口→10:25 行仙小屋→作業→12:00
昼食 12:50→作業→行仙小屋 14:00→14:40 給路登山口 15:00。

(記 濱野、 写真：梶野・川島)